令和５年度　大阪市　英語教育改善プラン

目標　4技能5領域を総合的に育成するとともに、コミュニケーションを図る資質・能力の向上を図る。

１．現状

改善が進んだ点

①児童の英語力向上

大阪市学力経年調査の平均正答率が昨年度比4.9ポイント上昇
R3　５年生：80.3%
R4　６年生：85.2%

②小中連携の推進

「小中連携を実施している学校の割合」が昨年度から20.3ポイント向上
48.5%→68.8%

未だ改善が必要な点

❶教師の英語力

CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合
R4 2.7%

２．分析

①独自施策等による成果

- 「小学校低学年からの英語教育」の取組による効果
- 全校でALT(本市ではC-NETと称す)の積極的かつ有効な活用
- 教師の英語授業力向上

②小中連携の必要性の高まり

- 情報交換や交流（相互授業参観等）を実施した学校が増加

❶教師の英語力不足

- 英語力向上のための自己研鑽の時間が不足

３．施策・事業

①児童の英語力向上に向けた施策

- 「小学校低学年からの英語教育」として、全小学校全学年において短時間学習を実施
- ALT(C-NET)を独自任用することで、経験豊富かつ指導力のあるALTを全校に配置（R5 129名）
- 英語授業力向上推進チームの講師が各小学校を巡回訪問し、研修や授業参観指導等を実施

②小中連携研修の実施・専科加配教員の充実

- 小中連携研修において、各中学校区単位で協議
- 専科加配教員の拡充および対象教員の研修を実施し、円滑な小中接続を図る

❶指導者対象英語力向上研修の実施

- 夏季休業中に、専門的な知見を持つ語学学校等と連携した集中講座を開設（２コース×４日）

一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

- 一定の英語資格を有する受験者には、申請によりテストの合計得点に加点
（英検, GTEC, IELTS, TOEFL, TOEIC）

様式１：中学校

令和５年度　大阪市　英語教育改善プラン

目標

4技能5領域を総合的に育成するとともに、コミュニケーションを図る資質・能力の向上を図る。
目標値：CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合56％以上

1．現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力向上
CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学３年生の割合が、昨年度から3.2ポイント上昇（４技能で測定）
本市55.8% / 全国49.2%
(R3 本市52.6%)

②小中連携の推進
「小中連携を実施している学校の割合」が昨年度から20.3ポイント向上　48.5%→68.8%

未だ改善が必要な点

❶教師の英語力
CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合
R4 35.3%（目標50.0%）

❷教師の英語の使用状況
発話の50%以上を英語で行っている学校の割合
R4 35.4%（目標75.0%）

❸言語活動の時間
授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
R4 48.7%（目標75.0%）

2．分析

①小中９年間を見通した取組の成果
- 低学年からの短時間学習の取組により、英語学習の素地が醸成
- 全校でALT(本市ではC-NETと称す)の有効な活用
- 教師の授業改善

②小中連携の必要性の高まり
- 情報交換や交流（相互授業参観等）を実施した学校が増加

❶英語力向上のための自己研鑽の時間が不足

❷教師の英語力不足が原因と考えられる

❸言語活動時間の割合は、昨年から1.1ポイント増えているが、依然として低い（R3 47.6%）

3．施策・事業

①生徒の英語力向上に向けた施策
- 「小学校低学年からの英語教育」として、全小学校全学年において短時間学習を実施
- ALT(C-NET)を独自任用することで、経験豊富かつ指導力のあるALTを全校に配置（R5 129名）
- ４技能外部テスト（全中３生対象）の結果データを活用した教員研修を実施

②小中連携研修の実施・専科加配教員の充実
- 小中連携研修において、各中学校区単位で協議
- 専科加配教員の拡充および研修の実施

❶指導者対象英語力向上研修の実施
- 夏季休業中に、専門的な知見を持つ語学学校等と連携した集中講座を開設（２コース×４日）

❷❸授業改善のための研修の実施
- 英語による授業の進め方や言語活動にかかる動画資料の充実

◆授業改善プログラムの実施スケジュール
５月　事前研修（研修動画視聴+指導計画作成等）
５月～10月　授業実践
10月　４技能外部テストによる効果検証
２月　事後報告会　結果データに基づく研修